



あなたもチャレンジ! 家庭菜園

夏に強いスタミナ野菜 モロヘイヤ

園芸研究家●成松次郎

モロヘイヤは、暑いほど生育が旺盛な野菜。別名「シマツナソ」「タイワンツナソ」とも呼ばれるアオイ科の1年生植物で、主にエジプトを中心に北アフリカ、中近東で栽培されています。古代エジプトの王が病気になる、医師がモロヘイヤスープを飲ませるとたちまち全快したことから、「王様の野菜」と呼ばれていたそうです。カルシウム、β-カロテン、ビタミンBなどが豊富な野菜です。葉を刻むと粘りが出ます。ただし、子実には有毒物質を含むため、さやの付いた茎葉は食べてはいけません。

[品種]日本に導入されている品種は同系統と思われる、品種分化は見られません。「モロヘイヤ」として販売されています。

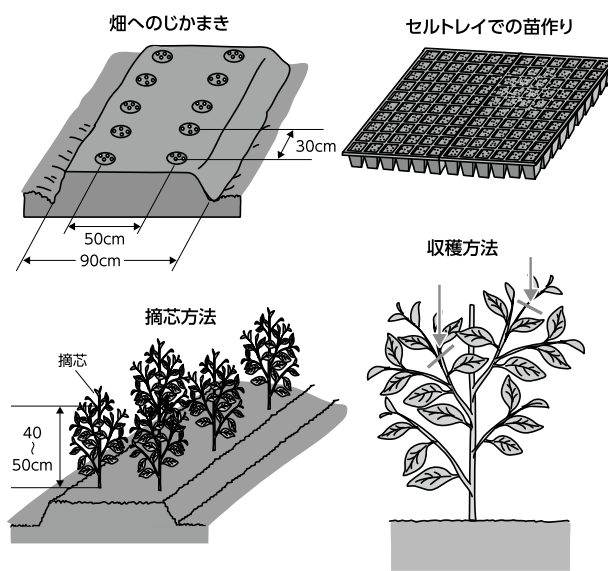
[栽培期間]じかまきでは、5月下旬から6月中旬に種まきし、収穫最盛期は7～9月です。

[畑の準備]畑に1平方m当たり苦土石灰100gを散布し、種まきの1週間前には化成肥料(N-P-K=10-10-10%)100gと堆肥1kgを施し、幅90cmの栽培床(ベッド)を作ります。

[種まき]発芽の適温は30度程度と高温のため、早まきしないこと。準備した栽培床に2条、条間50cm、株間30cmとして、1カ所4～5粒の点まきにします。なお、セルトレイで苗を作り、本葉4～5枚の苗を植え付けても良いでしょう。

[管理]間引きは2回に分けて行い、本葉4～5枚までに1本にします。草丈が60～70cmのとき、地面から40～50cmの高さで摘芯します。追肥は2～3週間置きに1平方m当たり化成肥料50g程度を施用します。茎が赤みを帯びてきたら肥料の不足です。また、十分に灌水(かんすい)すれば、柔らかい葉が収穫できます。

[収穫]収穫方法は、側枝に2～3節を残して、20cmくらいの先端葉を切り取ります。盛夏には2週間置きに収穫できます。なお、花は9月ごろから開花し、10月には結実します。



野菜害虫多発警報!!

今年は暖冬と晴天日が続く、各種害虫類が多発することが懸念されます。特に、アブラムシ類やヨトウムシ類、アザミウマ類の被害が考えられますから、早期発見・早期防除を徹底して下さい。

○アブラムシ類

アブラムシは作物を吸汁することにより、モザイク病などのウイルス病を媒介します。ウイルス病に感染した作物に対する有効な薬剤はないため、病気を媒介するアブラムシを早期駆除することが一番の防除法となります。またアブラムシは多くの仲間があり、体色は透明、緑、白、淡黄、黒と様々です。特にほとんどの野菜類に寄生するモモアカアブラムシには注意が必要です。



モモアカアブラムシ

○テントウムシダマシ

益虫のテントウムシとよく似た形をしていますが、体色は茶色で、黒い点々のある害虫です。成虫、幼虫とも主にナスやピーマンの葉を食害する害虫で、そのまま放置しておくくと数日のうちに葉が穴だらけになってしまいます。



テントウムシダマシ成虫 テントウムシダマシ幼虫

○ウリハムシ

ウリハムシはその名の通り、主にキュウリやスイカなどのウリ類を食害する害虫です。まず成虫が飛来し葉を食害、その後土中に産卵し夏に孵化しますが、このときの幼虫による根や茎の食害が最も被害が大きくなりやすいため、成虫が飛来した段階での薬剤散布や捕殺による防除を心掛けて下さい。



ウリハムシ

○ヨトウムシ類

ヨトウムシは、ヨトウ蛾の幼虫で、極めて多食性で、イネ科以外の野菜はほとんど被害を受けます。老齢の幼虫は体長2cmほどで、日中は土中や野菜の株元に潜み、夜間に地上部に出てきて野菜の葉や果実を食害します。「葉がムシに食べられレース状になっているのに害虫がいない」というのは、日中地上に姿を見せないヨトウムシに加害されたためです。このように葉は食べられているのに害虫が見つからない場合は、ヨトウムシの被害の可能性があります。

○アザミウマ類

体長1mm～3mm程の虫で多くの野菜や花などに飛来し、吸汁による食害を与えます。食害による白斑化は作物の商品性を失うだけでなく、生育不良など収量性にも影響します。またアブラムシと同様に病気を媒介します。アザミウマは短期間で大量発生しやすく、防除が手遅れということになりがちです。そのため、発生初期での薬剤散布による防除を徹底して下さい。

水稲

7月～8月は稲の幼穂形成期から出穂期に当たり、最も重要な時期です。間断通水による水管理を行うとともに、雑草や病害虫の防除を徹底して、良質な米作りをしましょう。今月はコメの品質・収量を決定する重要な作業が目白押しです。「実り多き秋」を迎えるための適期管理を実践して下さい。

品質向上のための水管理および追肥

圃場の水分が不足すると穂肥分の肥料効果の発現が遅れるので、中干しを終える7月上旬以降は、間断通水で浅水～土が湿った状態を維持し、肥料が適期に効きはじめるようにして下さい。

各品種とも出穂期前後は、比較的多くの水が必要です。水不足の時でも、地域ごとに日割り給水を行うなど水を有効に使ってこまめな水管理を行って下さい。

出穂前の葉色が極端に淡い場合は、乳白米や胴割米の原因になりますので、分施肥の2回目の穂肥時期に「新工コ追肥」を10kg/10a程度施用して下さい。但し、コシヒカリは過剰に施用すると倒伏の原因になりますので注意して下さい。

斑点米の原因となるカメムシ類の防除

2等米以下の主な格落ち理由として斑点米があります。カメムシ類防除の基本は「薬剤防除」+「カメムシの住みにくい環境を作る」ことが重要です。

水田内にヒエ等の雑草があると、カメムシ類の本田への侵入を助長するので早めに除去しておいて下さい。

薬剤防除については、無人ヘリ防除を実施しない水田では、①1回目は穂揃期 ②2回目は糊熟初期の最低2回必要です。

さらに、カメムシ類の発生が多い年は、薬剤の登録に従い仕上げ防除が必要です。



写真1.カメムシに吸汁された斑点米

いもち病の防除

いもち病は、稲体が軟弱で葉色が濃く、葉が垂れている水田で発生しやすくなります。常発地や葉色が濃い水田は常時観察し、発病をみたらすぐに防除して下さい。

紋枯病の予防

本病害は予防が効果的です。昨年紋枯病が発生した水田において、田植時に紋枯病予防効果のある箱施薬剤を使用しなかった場合は、モンカット粒剤(散布時期:出穂の3～4週間前)またはリンバー粒剤(散布時期:出穂30日前～出穂期)を散布して下さい。

コシヒカリの倒伏対策

7月上中旬頃に葉色が濃く、葉が垂れていたり、草丈が高い場合には、倒伏の恐れがありますので、スマレクト粒剤などの倒伏軽減剤の散布を検討して下さい。

【圃場を硬めにしすると作業がしやすく、倒伏対策になります】

中干しが十分できなかった圃場は、出穂期以降収穫期までに間断通水で落水する期間を徐々に長くして圃場を硬くしていきましょう。(収穫前の早期落水は米の品質を落とすことがあるので注意して下さい。)

夏まき野菜の播種

★夏まき野菜の播種

夏まき野菜の播種適期が近づきました。夏野菜の収穫に追われ、つつい播種が遅れがちになってしまいますが、品質のよい夏まき野菜を作るには適期播種が重要です。圃場の作付け計画を早めに立てて、圃場の有効利用に努めて下さい。夏まき野菜は大量少品目よりも少量多品目栽培をする方が「作る」、「育てる」楽しみが倍増します。なお、ハクサイ、ブロッコリー、カリフラワー等は早・中・晩生品種により播種時期を変える必要があり、早生種と中～晩生種を同時期に播種することは避けて下さい。

果樹

★温州ミカンの摘果

着果量の多い樹は今月上旬から摘果を実施して下さい。なお、樹上部の勢いの強い枝に成っている果実は、大きくなりますが、果皮が厚くて糖度の少ない果実にしかならないので、すべて摘果した方が賢明です。